



食物アレルギーと、どうつきあっていくか①

食物アレルギーは「病気」?

三〇年ほど前には、「うちの子は食物アレルギーなので、卵を食べることができません」と話すと、保育園や学校では「神経質なお母さん」と批判され、真剣に取り合ってもらえないことが少なくありませんでした。

アレルギーは口や鼻、粘膜、皮膚などを通して、外界から体の中に自分とは異なるタンパク質が入ってきたときに起こる反応のことです。免疫という、いわば体に備わっているパトロール隊が、「これは自分とは異なるタンパク質だ」と確認して、外界からやってきたタンパク質≠異物をいち早く外に出そうとするのです。花粉のタンパク質に対してアレルギー反応を起こすと、吸い込んだものや粘膜についてしまったタンパク質をいち早く外に出すため、くしゃみや鼻水、咳や涙が一斉に噴き出す花粉症はよく知られています。

食物アレルギーとは、食物のタンパク質が原因となつて起こるアレルギー反応のことをいいます。食べたり飲んだりして症状が起こるのもちろんのこと、触れたり吸い込んだりしても症状が起こる場合もあります。食物アレルギーは免疫が反応して症状が起こるのですから、間違いなく「病気」なのです。病気であるにもかかわらず、「神経質」と言われて、患者やその家族はずいぶん困難な状況におかれていた時代があったのです。